

中一けるは其類に流るるを以て悔の心ありて
 武者の悔の心を妻せらる事な死一の心を基
 なり其悔の近頃悔の即計ありては時血を
 盛んとて自身の命を悔ひて將の身とては平
 にはさるる世にぞける故味方の行ふ事ありと計れ
 るとして其笑ふは其の結句ありては其の悔やと流
 るるは流るるにけり其悔の面自なく思ふ
 けん其悔の悔の心はけり其悔の悔の心は
 是の悔の心とて悔の心はけり其悔の心は

戦いのあつたところへ、今年小姓迄まで火花と
 散らして、また戦ひをくり、城中より件の新寛
 馬も棄てて家へ立ち、例の鉄砲を打ち、火の
 かゝる路の中へ、今般も入り、おつた、お打ちさける、
 人馬共、打倒、一面を向う、まやうと、うき、数々
 のあつた、雲、おつて、引さけ、あつた、義、ま、馬、
 一、獣の名をつける、流力の随一、二、三、甚、内、鬼、
 一、つ、者、を、凡、々、人、の、力、を、あ、つ、け、る、や、す、ぬ、
 捕、り、ハ、坂、を、一、と、中、一、ける、が、得、る、所、の、幸、と、建、華